



やまきたともよし
山北友好さん
(昭和6年生まれ・84歳)



にしかわたかゆき
西川喬章さん
(香川高専託開キャンパス5年)

コーディネーターより

日本初の海員養成学校「国立粟島海員学校」が設立されたことで知られる三豊市の粟島。元外洋航路船員の山北友好さんへのインタビューは、西川さんのたつての希望で実現しました。瀬戸内海の小さな島、粟島から多くの船員さんが海外へ旅立った話。船員としての技術や航海術をどう学んだか。船上での暮らしや世界中の国々の風景や様子など、山北さん自身が撮影された写真を拝見しながら伺いました。そこから見えてきたのは当時の人たちがどのように海と関わってきたのか。インタビューの最後、山北さんは「日本は海があつての国やからね。海をもっと大事にせなあかん。若い人がもっと船乗りになって、我々がつくってきた足跡をなくさないでほしい」という言葉で締めくくられました。

いると。それで勉強する場が必要ということで、粟島に学校ができたんです。そうやな、はよ言ったら航海術を学ぶために学校ができた。外国に行くようになつたら、星を目標に走らないかんから。天体の高度を測って、船の緯度や経度を決める計器、「六分儀」の使い方とかね。太平洋の真ん中やつたらどこを走つとるかわからんからね。

——山北さんが船でしていた仕事はどういうジャンルですか？

私は舵取りです。「コーター・マスター」というてね。船の中にも人間と同じように、手や目、口のような働きをする職種があるんですよ。そういう風に船の中にいっぱい職がある。私は舵を取る方から、手かな？ 目にもなるんかな？ 他にも無線やまかない担当、航海士は「オッサー」と呼ばれてた。エンジニアの一番偉い人が機関長。

——船乗りの仕事を通して、山北さんが得たものはなんですか？

そうやな、世界も見とるし、日本も見とるし、人も見とるし。なんというかな、人間同士の付き合いかな。同じ釜の飯を食べるって、言うじゃないですか。陸で働いとる人は、言い合ひして喧嘩しても、この野郎と思つても、あくる日から顔合わさんでいいじゃない。でも船は、そうはいかん訳ですよ。翌日から航海中ずーっと顔合わしとかないかんから、モヤモヤが溜まると、体が悪くなる。だから、「見ざる、言わざる、聞かざる」陸やつたら、さっと違う会社に行ける

海があつての日本やきん、
船のことを思つてほしい。

粟島の外洋航路の元船員 山北友好さん(三豊市)



船乗りの伝統を
なくさんように。

1「世界中の主な港で行っていない所はほとんどない」と山北さん。撮りためた寄港地の写真は船の中で自分で現像した 2「今の船がどこにいるのかちゅうのを六分儀で測って走つたんです。こんな風にのぞきながら、秒単位で測るんです」 3船員歴33年の山北さん。自らの体験を通して自分たちのつくり上げた歴史や伝統を若い人たちに伝え、受け継いでいくために語り手として活動されている 4山北さんが実際に乗っていた大型船 5高度経済成長期、主に日本製の列車や車を運んでいた 6六分儀。粟島海洋記念館資料館で保管・展示中



山北さんから受け取った言葉

——山北さんはどのような経緯で船員になろうと思われたのですか？

粟島という島は船員が多いんです。島言ではないくらい船員が多いんです。島には仕事は無いから。だから出稼ぎというかね。みんな船員になった。お祖父さんが乗つとる、いとこが乗つとる、子供が乗つとる。誰かかれか一人は必ず粟島の家には船員さんがおつたんです。一つは生活のためですね。だから、そういうことで私も船に乗りました。

——船員さんが多かったのは、粟島海員学校があつたからですか？

学校があつたからというのもありですが、粟島は江戸時代から北前船で北海道と交易するなど海運業が盛んで、船乗りというのは、ずいぶん昔からあつたんです。それが時代とともに和船から汽船へと変わつて、船を操縦するには免許が

し、あつちから歩いて来よつたら、こつに避けて歩けばいいって考えることもできるし。船は、それがいかんがな。だから、そういうところ一つ一つの勉強やわな。人間をつくつてくれる。

——若い人たちに伝えたい思いとか感じてほしいことがあれば教えてください。

日本はね。海があつての国やからね。我々としては、やっぱり若い人がもっと船乗りになつて、海があつての日本やきん、海をもっと大事にしてほしい。もう少し若い人に、なるだけ船のことを思つてほしいな。船乗りだという人が、若い人におらんじよ。外国人に船を任してしまつたら、せつかく我々がつづけてきた伝統をなくしてしまうことになる。つらいね。これは願いですわ。少しでも、日本人の船員さんをなくさんように、少しでも残しておいてほしい。

参加者の感想



今回、一番心に響いたことは、山北さんたちがつくり上げた歴史や伝統を絶やさないでほしい、それを若い人たちに伝えたいという気持ちです。今、グローバルという言葉は当たり前になっていますが、山北さんを含む当時の船員はいち早く世界と仕事をし、交流を深めてきました。山北さんは今の日本と世界をつなぐ架け橋になってきた人の一人だと思います。皆さんの歴史や伝統、思いを受け継ぐことが私たち若い世代の役目ではないかと思いました。

葉は当たり前になっていますが、山北さんを含む当時の船員はいち早く世界と仕事をし、交流を深めてきました。山北さんは今の日本と世界をつなぐ架け橋になってきた人の一人だと思います。皆さんの歴史や伝統、思いを受け継ぐことが私たち若い世代の役目ではないかと思いました。